

経営比較分析表（平成30年度決算）

岐阜県 池田町

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
1	-	-	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和19年 3月20日 宮地発電所	令和19年 3月20日 宮地発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
中部電力株式会社	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H26	H27	H28	H29	H30
水力発電	-	-	-	-	187
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	187

	F I T以外	F I T	合計
年間電灯電力量収入（千円）	-	6,368	6,368

剰余金の用途について（具体的な使用実績事業を記入してください）

小水力発電事業により生じた利益は、将来の施設更新及び大規模修繕基金の積立及び農業集落排水事業への繰出金（処理施設の電気代）に充てている。

- 小水力発電事業基金積立金：1,328千円
- 農業集落排水事業特別会計への繰出金（処理施設の電気代）：606千円

分析欄

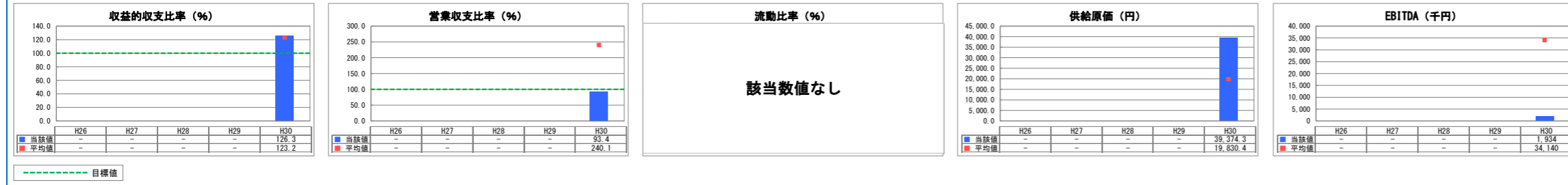
1. 経営の状況について

収益的収支比率は100%を上回り、収支は黒字である。営業収支比率は100%を下回り、営業収支は赤字である。供給原価は平均値の約2倍の数値で、原価が高くなっている。

要因としては平成30年度は発電所が台風により被災し、多額の修繕費を要したことが考えられる。また修繕費の50%の建物保険の収入があったため収益的収支比率は黒字だが、営業収支比率は赤字となった。また供給原価も同様に、多額の修繕費により高い数値となった。

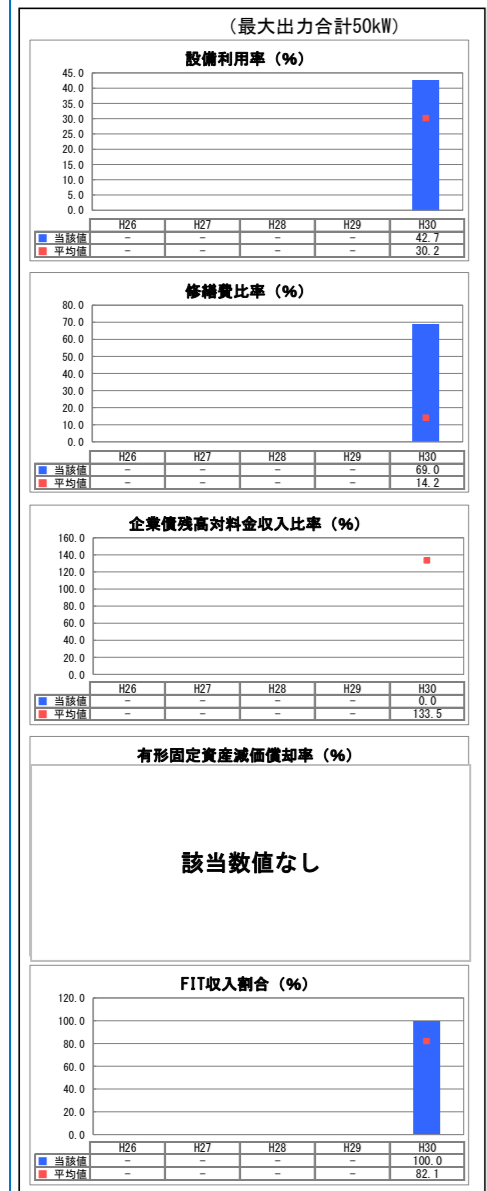
平成30年度の経営状況は営業収支、供給原価の数値から健全な経営ができていないとは言えないが、被災に伴う修繕費が要因と考えられ、また当該発電所は発電開始年度のため、次年度以降の経営状況を考慮して経営改善を行っていく。

1. 経営の状況

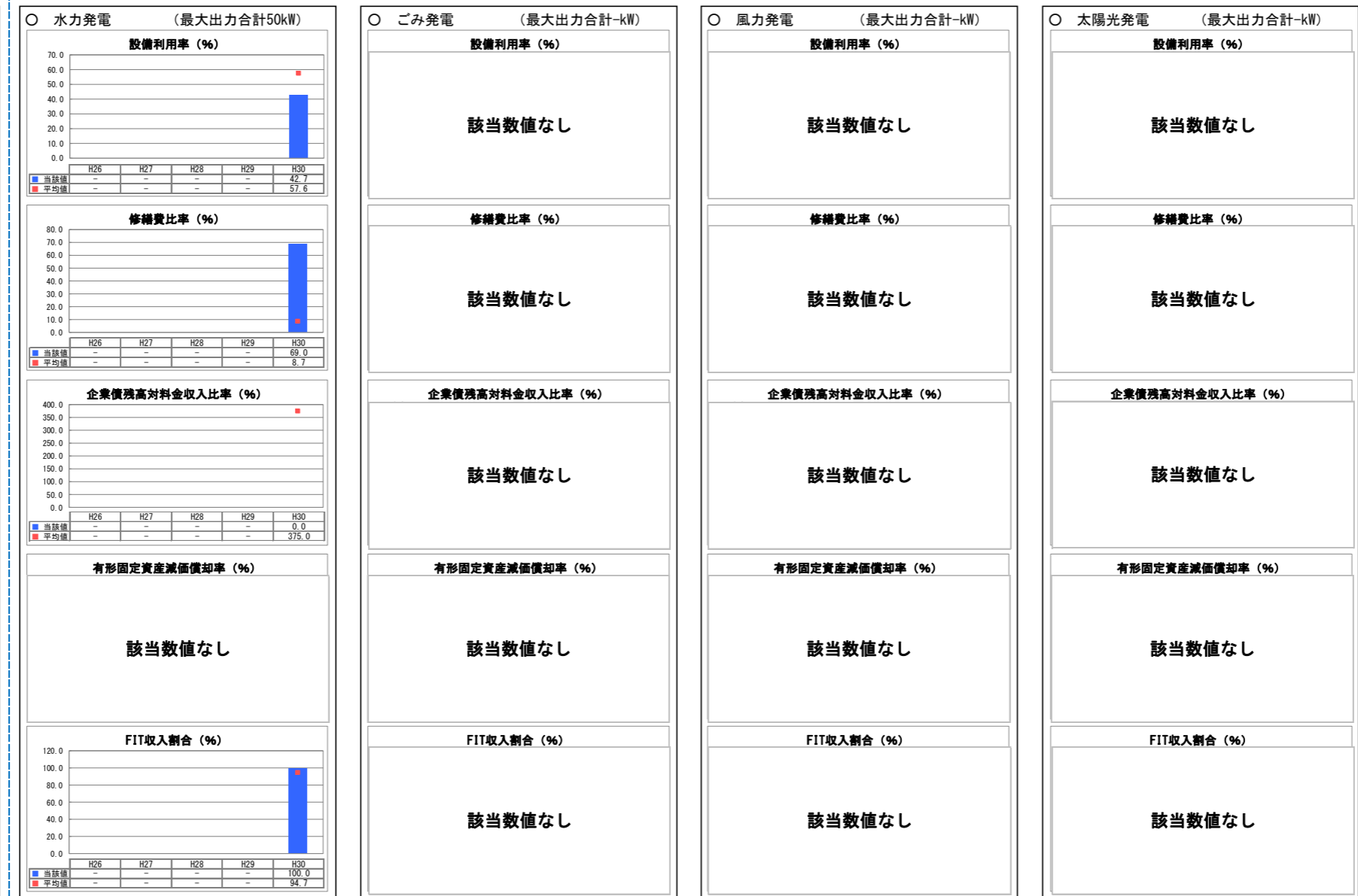


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

設備利用率は42.7%で、平均の発電型式別設備利用率57.6%を下回っている。これについては発電事業開始年度ということで、試運転期間が含まれていること、天候等の環境的要因が考えられる。

修繕比率は69.0%で、平均の8.7%を大きく上回っている。これについては上記のとおり台風による被災が要因となっているため、修繕計画の見直しの必要はないと考えられる。

全体総括

現状において健全な経営であるとは言えないが、平成30年度は発電事業開始年度であり、経営比較ができないため、次年度以降に本格的な分析を行っていき、状況に合わせて経営改善をしていく必要がある。

※ 平成26年度から平成30年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債務高対料金収入比率、FIT収入割合については、平成30年度の団体数を基に平均値を算出しています。